

## 北京の看板②

今回は当館が所蔵する中国看板資料「幌子」の概要と収集の経緯について述べた。本稿では全資料を具体的に紹介したい。

満洲事情案内所編『満商招牌考』(1940)では、幌子を形状によって6種に分類する方法が提案されている。この分類に基づいて各資料をグループ化し、どのような業種の幌子があるのか以下に列記した。なお日本語訳は、天理大学・天理教道友社編『ひとものこころ 北京の看板』(1987)を参考にしている。

### ①実物幌子

商品の実物を看板としたもの。実物の形状に、装飾と若干の嗜好を加えただけの幌子である。図1は帽子をそのまま幌子にしている。扱う商品が最も単純にして分かりやすく、ショーウィンドーに商品を並べて見せる手法とほぼ同様である。なお、ほとんどの幌子は底部に赤い布きさを下げている。

(当館所蔵資料) 蒸籠屋、ちょうちん屋、毛氈・フェルト類商、絨毯商、黄銅製什器商、太鼓商、弦鳴楽器商、古着屋、ガラス珠細工屋、糸・小間物商、靴の表布販売の標識、官吏・勲功者の礼帽徽章羽飾りの販売標識、馬のむながい飾り販売の標識、馬具屋、革鞭商、綿屋、羅字屋の標識、灯心販売の標識、ごぎ屋、飼葉・藁材製品商、柳条編み物工場、桶屋、錫・ピューター製什器商、銅鑼商、真鍮什器店、角細工屋、弩・玩具商、額縁販売の標識、靴・しとうず商、靴底工作所、婦人靴の木底商、帽子屋(図1)、かもし商、婦人まげ型商、タオル・ハンカチーフ類商の店頭標識、祭祀用品・冥銭類商、皮革店、麻製品の販売標識



図1 帽子屋の幌子  
高さ 12.5cm

### ②模型幌子

商品の模型を看板としたもの。宣伝効果を上げるため、実物を誇張したものも見られる。模型の材料には木・銅などを使用するが、多少の粉飾を加えるため、①の実物幌子より少し進化した幌子と言える。図2はきせるの模型を幌子としている。ただし長さが79cmもあり、実物のきせるに比べて大きく、目立つように作られている。



図2 きせる・喫煙具商の幌子  
長さ 79.0cm

(当館所蔵資料) 銀行、両替店、ろうそく商、火打ち道具販売の標識、靴屋、しとうず商、針・小間物商、刀剣商、経帷子商、きせる・喫煙具商(図2)、模造装身具商

### ③包装幌子

商品の包装や容器を看板としたもの。扱う商品が液状や粒状の場合、この形態が最も容易であったと思われる。容器の実物を用いる場合と、その模型を用いる場合がある。図3は酒を入れる容器として用いられた瓢箪の模型を幌子にしている。

(当館所蔵資料)

下米販売の標識、上米販売の標識、米酢醸造所、蒸留酒販売の標識、薬酒屋(図3)、嗅ぎたばこ屋、びんろうじ屋、酒屋

### ④効果幌子

扱う商品についてはその素晴らしさを、店主の技能についてはその優越を示す看板。効果を示すのに物で表す場合と、文字または絵で表す場合がある。図4の眼薬専門店の幌子は、布製の2つの円盤にそれぞれ「目」が描かれている。これを表わら

で作った点眼管と一緒に吊り下げて、「当店の目薬を付けるとこのように美しい目になる」ことを宣伝している。

(当館所蔵資料) 穀粉商、眼薬専門店(図4)

### ⑤象徴幌子

取り扱う商品に対する宗教的・道徳的・または歴史的など、何らかの抽象的

意味を象徴した看板。これを見慣れていない客にとっては、何を販売する商店なのか判断が付きにくい場合が多い。しかしその難解さから、最も興味をそそられる幌子であるとも言える。

図5の醸造酒料理屋の幌子には、「天子呼び来たれども船に上らず」と書かれている。この詩は、唐代に活躍した詩人である杜甫(712~770)が、友人の李白(701~762)のことを詠んだ作品の一部である。李白は酒好きの詩人として知られているので、この詩がそのまま醸造酒料理屋の幌子になったのであろう。

(当館所蔵資料) 官許馬蹄銀鑄造店、切り麵・半調理粉食品店、醸造酒料理屋(図5)、蒸留酒と食事の居酒屋、イスラム教徒用料理屋、小飲食店、干菓子屋、祝い菓子屋、菓子屋、たばこ屋、金と金製品商、銀製食器・什器類商、婦人の額当商、辮髪結紐販売の標識、石鹸洗剤商、床屋、銭湯、漢方薬商、膏薬・漢方溶剤薬品の販売標識、産婆、車両製作所、顔料屋、生姜・菌類乾物商、たけのこ・風味食品商、切り麵・半調理粉食品店、ごま油の小売り標識、一膳めし屋、元宵団子売り出しの標識、紙漉場、木賃宿、洋漆・ペイント商

### ⑥描写幌子

商品を文字または絵のみで表す、現在の看板に最も近い形態の幌子。図6は木の板に刃物の絵が配された幌子である。下部中央に見えるのは、所持するだけで宝が集まってくる

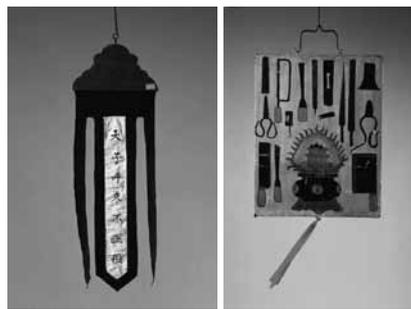


図5(左) 醸造酒料理屋の幌子 高さ 70.0cm  
図6(右) 刃物商の幌子 高さ 66.5cm

お盆「聚宝盆」と思われる。幌子には扱う商品以外に、このような縁起の良い図柄が描かれることも多い。

(当館所蔵資料) 銀行、制錢鑄造所、刃物商(図6)、赤銅什器商、かわせみ羽根細工の装身具屋、貴金属製装身具商、床屋、運輸業、乳酸珍珠“奶酪”の売店、茶店、ふいご屋、仕立屋

当館が所蔵する中国看板資料124業種(136点)は以上の通りである。この中には「銀行」「酒屋」など、同業種でありながら形状の異なる幌子が存在する。重複する業種は表記を省いたので、上記に挙げた業種数は124種未満となっている。

本稿では前回に引き続き「幌子」を紹介した。しかし各幌子のデザインの意図や、扱う商品についての詳細など、未だ明らかにされていない部分も多い。筆者は今後も研究を継続し、疑問の解明をしていきたいと考えている。